

協議事項 2

大芝高原森林づくり実施計画について

1

これまでの計画と実施状況
～なぜ「実施計画」が必要か～

2023.10.26 大芝森林づくり協議会①説明資料
地域おこし協力隊 杉本健輔



はじめに

これから実施計画を考える前に・・・。

これまで、どんな計画があつて、どのように実施されてきたか？

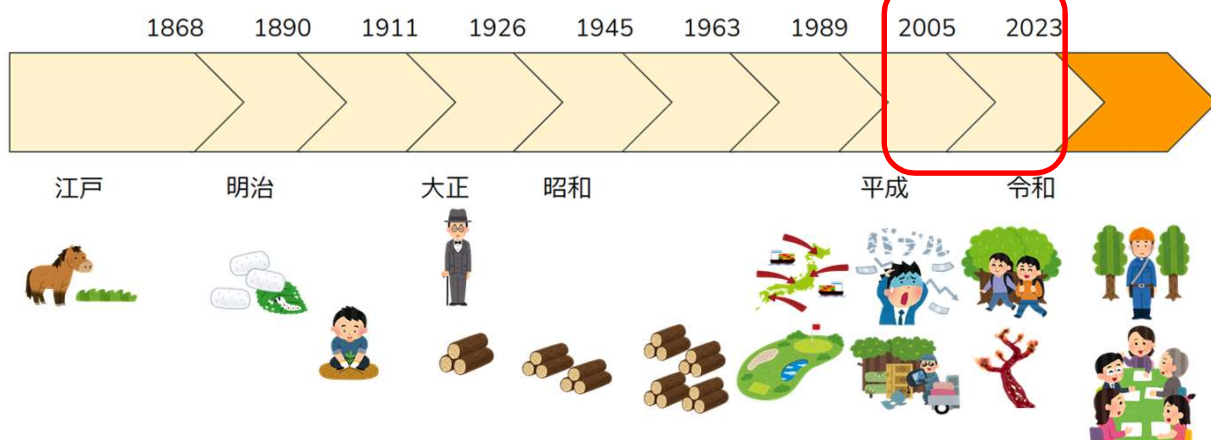
基本計画だけではダメなのか？？

これまでの経緯を振り返って見えてきたこと。



大芝の森の歴史

環境林として転換してきた
1990年代以降の計画・整備に注目



まぐさば・入会地 → 植林 → 用材林として村を支えた → 林業衰退 → 環境林整備 → 松枯れ

近年の計画と整備

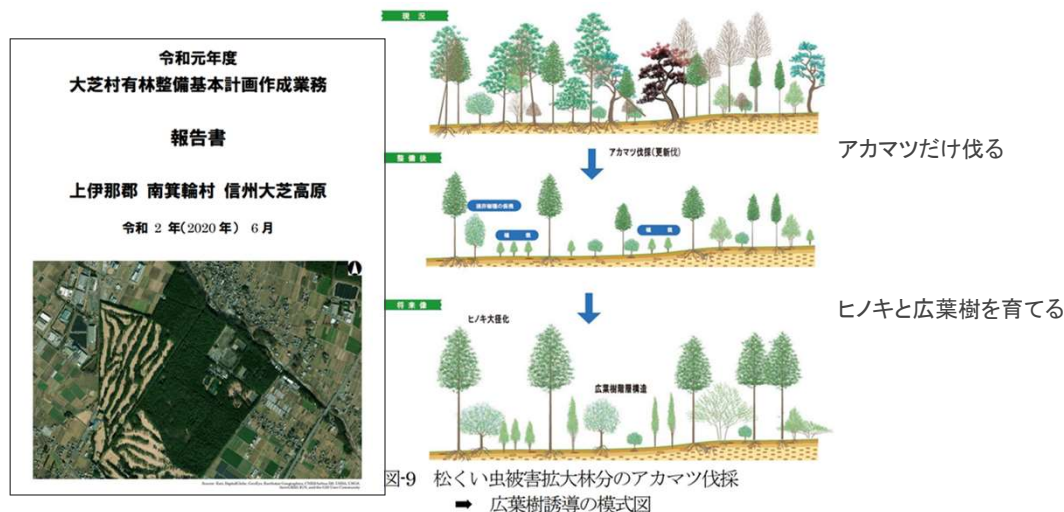
- 1999 「大芝公園林調査報告書」
 - 1997に村が公園林として活用する検討をスタート。信州大学・村民有志による大芝公園林検討会。
 - マレット・アスレチックの踏圧による土壌硬化・植生衰退、過度な林床刈り払いによる植生の単純化および次世代広葉樹林の未成立、林縁の計画的管理の必要性、アカマツ・ヒノキの樹冠の競合の懸念と間伐の必要性、枝打ちの必要性の見直し、など様々な課題が述べられている。
- 2004頃 生活環境保全林整備事業(県による整備)
 - 1999調査報告書をベースに設計。散策路・施設整備、森林整備(間伐)を複数年にわたって実施。
- 2006 セラピーロード®に認定。アカマツに薬剤樹幹注入を開始。
- 2011.1 「大芝村有林森林整備基本計画」(2011基本計画)を策定
 - 間伐・樹幹注入による病虫害に強い森林づくり
 - ヒノキを強度間伐し、自生する広葉樹を育成。アカマツ林の一部は広葉樹林へ転換。
- 2011.4 刈り払い等の日常管理業務を開始
 - 仕様書に「全面刈り払い」、5mまでの枝打ちを実施する旨規定。
- 2017 大芝で松枯れ被害を確認
- 2019 薬剤樹幹注入を終了(生理的限界)
- 2021 「大芝村有林整備基本計画」(2021基本計画)を策定
 - 課題として、間伐不足で過密な林分があること、中下層の広葉樹が発達していないことを指摘。
 - 枯れる前にアカマツを伐採。現存するヒノキ・広葉樹を育成して樹種転換。
 - 資源・空間の利活用を推進。



1999年からずっと
同じ課題
(間伐・広葉樹育成)が解
決せず・・・

2021基本計画の課題に
対してはどうか？

2021基本計画に沿った森林整備の模式図 (アカマツのみを伐採し、ヒノキ・広葉樹林へ)



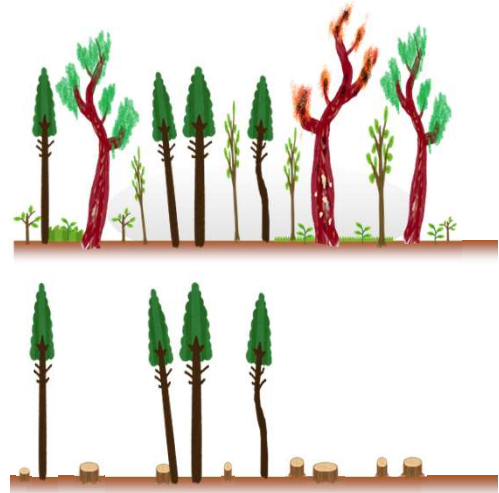
2021基本計画以降の森林整備の実態

● 2021伐採

- 基本計画では保残することになっている広葉樹もアカマツと一緒に伐採・刈払。



2021以降も、基本計画に沿った森林整備がされていない。



大芝公園林整備計画の意義と目的

97・9・18 産業課商工林務係

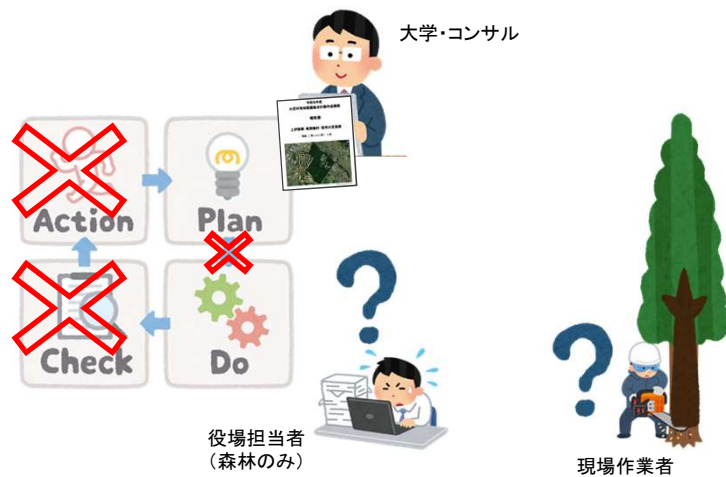
26年前に役場が書いたもの。

南箕輪村大芝地区に現存する約100ha（ゴルフ場用地内部分を除く）の村有林は、伊那谷でも屈指な規模を持つ貴重な村有林である。（この村有林を仮に大芝公園林（以下「公園林」と呼ぶ） 公園林は都市化が進む村にあって居住地に近く、年間数十万人が訪れる大芝公園を内包している。人工林であるがゆえに人為的な管理が不可欠であり、かつ施業方法によっては永続的な森林として管理することも可能である。その管理・整備方法は住民要望や行政の将来計画さらには森林の摂理に照らし合わせて、合理的で一貫性を持ったものでなくてはならない。

村は従来から公園区域内は公園利用を主目的に、それ以外は経済林と位置づけて管理してきたが、その施業方針は時々の理事者、議会、林務担当者、作業員の協議によって決められてきたと思われる。また、村有林であるため各々がそれぞれの判断で手を入れるきらいがあり、今日までそうした管理の弊害や危惧もいくつか指摘されている。（マレットゴルフコースの裸地化、林床刈り払いによる植生の単純化、次世代木の未成立、強度の枝打ちによる林床の乾燥化など） こうした中で村は昭和61年（1986）信州大学農学部演習林研究室、島崎教官等に依頼し当面10年間を見通した「南箕輪村大芝村有林施業診断書」を得ている。

1999「大芝公園林調査報告書」より抜粋

どうすれば基本計画を実現できるか??
(行政批判だけで終わらない、仕組みづくり)



どうすれば基本計画を実現できるか??
(行政批判だけで終わらない、仕組みづくり)



まとめ：「絵に描いた餅」は無しで。

● 計画をきちんと形にしましょう。

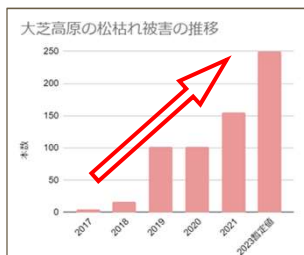
- 20年以上前から計画はあったが、実施に十分に反映されてこなかった
- フワッとした基本計画だけでなく、いつ、誰が、何をするのか、具体的な取り組みまで落とし込んだ「**実施計画**」(アクションプラン)が必要
- **PDCAの仕組化**、人材育成確保など、実施を担保する仕組みが必要

● 横断的な取り組みにしましょう。

- 2021基本計画は、森づくりだけでなく資源・空間の利活用等についても言及されている。
- 観光森林課だけでなく、**庁内横断的な計画として位置づけ**、役場として一体的な取り組みを。(特に教育や保健福祉分野)
- ビルド&ビルドでは破綻するので、まずは既存の取り組みの見直しから。
- 役場の行政施策だけでなく、開発公社や村民等、様々な主体が連携した取り組み(プロジェクト)も展開できるとよい。

松枯れWebマップ。スマホでどうぞ。

おまけ： 松枯れの状況

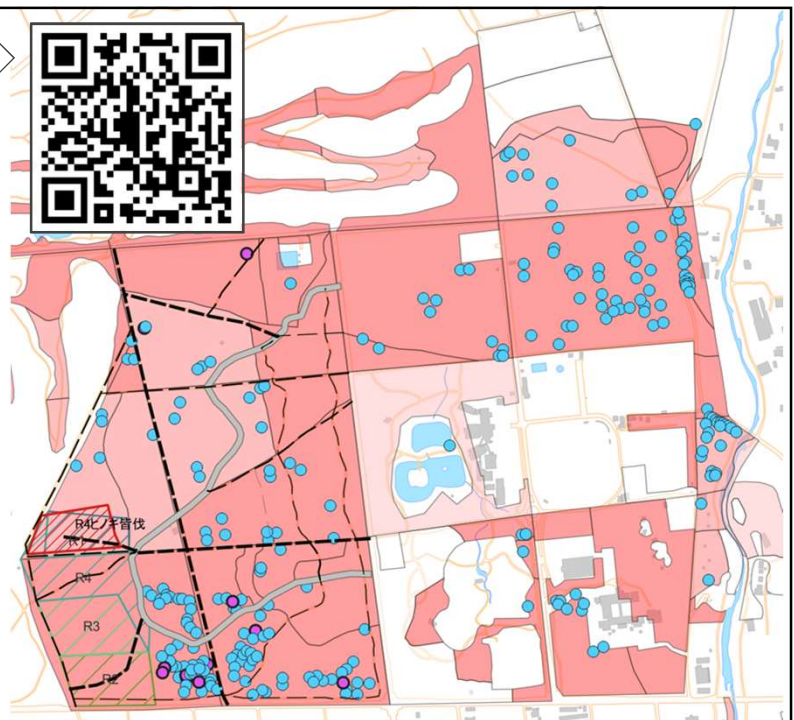


青丸＝2023.9時点松枯れ(250本)

※森林監視員による踏査結果

赤塗はアカマツ蓄積(濃赤は200m³/ha以上)

アカマツ伐採済エリアは左下約6haのみ



あくまで、全体的なイメージ・骨組み。

- そもそも「実施計画」とは何か？
 - 庁内横断的な施策体系
 - 協働型の森林デザイン
- 実施計画の目次
- 協議会の機能
- 具体的な取り組み（施策等）の例
- 村民や民間と協働するプロジェクトのイメージ

青色の吹き出しは
協議会で検討いただきたい主な内容。
表題・文言・図など何でも変更OKです

大芝高原森林づくり 実施計画（骨子案）

2023.10.26 協議会①説明用
地域おこし協力隊 杉本

はじめに：「実施計画」って何だろう？

各プロセスで村民意見取り入れ

基本計画

- ・課題の整理
- ・大まかな目指す姿

実施計画

庁内横断的な施策体系
（誰が、いつまでに、
何をしていくのか）

各施策の実行

協働型の森林デザイン

森林整備の実施

空間利用・サービス産業

木材利用

木育・森林教育

人材育成 など

森をつくる

森を活かす

森を支える



そもそも実施計画
って、何だろう？

大芝の実施計画＝「施策体系」＋「森林デザイン」

恵那市を参考に→

実施計画 本編
（骨子案）

別冊 森づくり編
（骨子案）



実施計画の目次（案）

1. 総則
 1. 計画の目的
 2. 計画の理念
 3. 計画の位置づけ
 4. 計画の期間
 5. 森林協議会・づくり協議会の役割
2. 森林の現状
 1. 森林の状況
 2. 利用の状況
3. 期待される森林のあり方
 1. 自然を活かした多様な森
 2. 多様な利活用
 3. 人と森のかかわり
4. 取り組むべき課題とその取り組み方法
 1. 森をつくる
 2. 森を活かす
 3. 森を支える
5. 森林づくりの方針（別冊_森づくり編）

協議会の検討ロードマップ（案）

【第1回】

実施計画のおおまかな構成
協議会の検討の進め方

村民アンケート

現地検討会

【第2回】

総則、森林の現状、
期待される森林のあり方

【第3回】

「森をつくる」のうち、目標林型、
基本的な施業方針

【第4回】

「森をつくる」のうち、詳細ゾーニ
ング、施業方針

【第5回】

「森を活かす」、「森を支える」

1.1 計画の目的

以下、恵那市実施計画を参考に骨子案を作成。
この辺の文言も、もちろん変更してOKです。

この「大芝高原森林づくり実施計画」（以下「実施計画」）は、
「大芝村有林整備基本計画」（以下「基本計画」）で挙げた整備基本方針・
整備目標に対して、具体的な施策や実施期間等を定めることにより、
基本計画の実現に必要な取り組みが体系的に実施され、
利用者に愛されるいやしの森が、いつもいつまでも適切に管理されていくことを
目的とします。

1.2 計画の理念

- 計画の理念

「大芝高原いやしの森 いつもいつまでも」

「大芝高原将来ビジョン」
のコンセプトと同一

合意形成の土台となる絶対にブレない文言
を入れておきたい。

- 大芝森づくり憲章

大芝の森は、１００年以上前から先人たちが後世のために育ててきた全国屈指の平地林で、かけがえのない村民の財産です。

私たちは、この森の恵みを活かした、より良い村づくりを目指します。

いま大芝の森は、松枯れにより村のシンボルであるアカマツが消失するという、未曾有の危機にあります。

私たちは、みんなで森を支えていける地域社会をつくり、豊かな森を後世に引き継いでいきます。

1.3 計画の位置づけ

合意形成すること、見直しをすること、庁内横断
型で取り組むこと などを明記しておきたい。

実施計画は、基本計画「終章 大芝高原の森林転換期」で挙げた整備目標を達成するため、具体的に行う施策や実施期間等を定めるものです。また、各種施策の基本となる、森づくりの方針についても定めます。

実施計画は、「南箕輪村第5次総合計画」「大芝高原将来ビジョン」、「大芝村有林整備基本計画」、「南箕輪村森林整備計画」等と整合させて進めていきます。

計画の策定・見直し・実施の各段階で、村民や利用者の声を反映させるとともに、庁内横断的に取り組む。：森林の現状・課題や、大まかな方向性（整備目標）を示したもの



【実施計画】：具体的に行う施策・目標・実施期間および森づくりの方針を示したもの。

【各種施策】

森林
デザイン

森林整備

利活用

教育

人材育成

村役場の事業
＋
協働型プロジェクト
で実施

1.4 計画の期間

実施計画は2023（R5）年度～2030（R12）年度の5年間を計画期間とします。

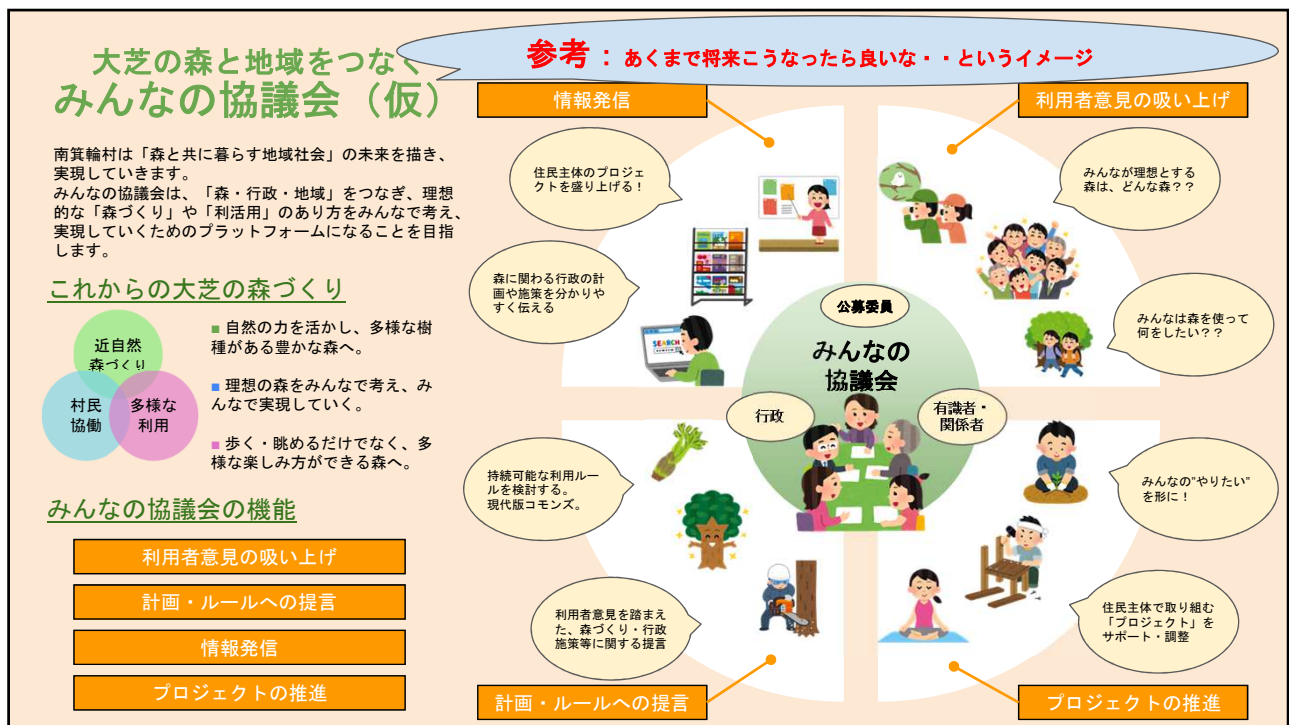
（大芝村有林整備基本計画と同一期間。）

実施計画に従って施策を実行しますが、随時、施策の進捗状況や成果などを確認し、計画の見直しを行います。

2023年度	2024年度	2025	2026	2027	2028	2029	2030年度
計画策定							計画見直し
各施策の計画的実行							

1.5 森林協議会・大芝高原森林づくり協議会の役割

	森林協議会 (通称：森林協)	大芝高原森林づくり協議会【NEW】 (通称：○○○○)
対象範囲	村内の森林全域	大芝高原の森（みんなの森以外も含む）
所掌事項	●村の森林政策全般に関する協議 ○市町村森林整備計画ほか	●大芝の森の整備、利活用、普及啓発・協働に関する協議 ○実施計画（素案）の検討
今後追加 (?)	●施策評価・見直し(?)	●施策評価・見直し(?) ●村民・利用者への情報発信 ●村民・利用者からの意見の吸い上げ ●協働型プロジェクトの推進
組織	○行政（副村長、県林務） ○有識者（大学、森林総合監理士） ○関係者（森林整備・自然保護団体、森林所有者・区長会）	○有識者（大学） ○関係者（様々 ※森林協議会の委員と一部重複） ○利用者等（利用団体、公募）
役場担当	観光森林課のみ	観光森林課（＋教育委、保健福祉など庁内横断）
備考	常設、議事録は非公開	（現時点では）非常設、議事録は公開



2 森の現状

2021基本計画・2023調査結果等を要約してまとめる（後日加筆）

- **森林の状況**
 - アカマツの松枯れが進行
 - ヒノキは間伐が必要な混み合った林分も
 - 天然の広葉樹が混交しているが計画的に育成されていない
- **利活用等の状況**
 - 資源利用は、木材も低価格での販売に留まる。などの資源利用は模索中
 - 空間利用は、利用者・利用方法が限定的
- **普及啓発・協働等の状況**
 - 基本計画の認知度は低調。
 - 村民と森との関わり希薄。

簡潔に現状を伝えます。
森の状況だけでなく、
資源・空間の利活用のほか、
普及啓発・協働など、社会的
な課題も

3 期待される森林のあり方

2021基本計画・アンケート結果なども反映してまとめる

- 目指す森の姿

- 憩いと癒しのか所として、村民がより親しめる森。
- 生き物や自然が豊かで、多様性に富んだ森。
- 様々な自然の恵みを活用できる、恵み豊かな森。
- 豊かな心や身体を育む、学びの森。

森の現状、村民・利用者のニーズを踏まえて、目指す森の姿を簡潔に記します。

- 必要な取り組み

- 多様で自然豊かな森づくり（森をつくる）
- 多様な森の恵みの活用（森を活かす）
- 森を支える地域社会づくり（森を支える）

必要となる取り組みを大まかに整理する「柱」を示します。

4.1 森をつくる(1)

現状と課題を整理し、目指す姿を共有したのち、具体的な取り組みを検討していきます。
具体的な取り組みについては、項目だけでなく、誰が、いつ、何をするか明記（恵那市の実施計画のイメージ）

- 現状と課題

- 松枯れの進行（2030年までに壊滅的）、落枝などの危険。
- 合意形成された計画に沿った施業が実施されていない。

- 目指す姿

- 早急な安全対策が実施されている
- 利用者のニーズを反映し、50年先を描いたゾーニング・目標林型が策定されている
- 目標林型を達成するための施業方針・ガイドラインが策定されている
- 上記に沿った森林整備（伐採・刈り払い・造林・保育）が実施されている
- 目標林型に向かった植生遷移が進んでいるかモニタリング・検証されている

4.1 森をつくる(2)

現状と課題を整理し、目指す姿を共有したのち、具体的な取り組みを検討していきます。
具体的な取り組みについては、項目だけでなく、誰が、いつ、何をするか明記（恵那市の実施計画のイメージ）

● 具体的な取り組み（例）

- ゾーニング・目標林型案の作成と合意形成
 - 【事業内容】：将来、どこをどんな森にしたいか。森づくりをしていくうえで必要となる、目指すべき森のかたち（目標林型）と、その配置（ゾーニング）を明らかにします。検討にあたっては、現在の森の姿などの自然条件だけでなく、村民・利用者のニーズを反映させます。
 - 【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）
 - 【実施期間】：R5年度

（以下、項目のみ例を示します。同様に事業内容、実施主体、実施期間を明記）

- 施業方針の検討、施業ガイドライン策定（伐採・刈り払い・その他環境整備）
- 森林整備の実施
- モニタリング方法の検討と実施
- ……など

4.2 森を活かす

現状と課題を整理し、目指す姿を共有したのち、具体的な取り組みを検討していきます。
具体的な取り組みについては、項目だけでなく、誰が、いつ、何をするか明記（恵那市の実施計画のイメージ）

● 現状と課題

- 木材利用は、方針・システムが構築できていない（村内利用？高値販売？効果的な発注方法・取引方法は？）
- その他資源利用は、ルールが曖昧・認知されていない。
- 空間利用は、限られた利用者・利用方法にとどまっている

● 目指す姿

- 木材販売の方針・システムが構築されている、資源循環の森。
- 多様な森林資源が持続可能な形で利用されている、コモンズの森。
- 様々な主体による活発な空間利用がされている、楽しい森。

● 具体的な取り組み（例）

- 原木販売の方針・売先・システム検討
- 公共施設等における木材利用の仕組みづくり・推進
- DIY材、薪、チップ材販売の仕組みづくり
- その他森林資源利用・空間利用のルール検討
- 多様な森林資源の活用促進
- より快適な散策・森林セラピーの推進
- 空間利用ニーズの掘り起こし・検討・実施主体の育成
- ……など

4.3 森を支える

現状と課題を整理し、目指す姿を共有したのち、具体的な取り組みを検討していきます。
具体的な取り組みについては、項目だけでなく、誰が、いつ、何をするか明記（恵那市の実施計画のイメージ）

- 現状と課題
 - 森への興味関心・知識が希薄
 - 森づくりや森の利活用のあり方検討について、参加機会がない
 - 森づくりや森の利活用について、参加機会がない
- 目指す姿
 - 村民みんなが大芝の森について興味を持ち、学び、あり方を考え、支えていく地域社会になっている。
 - 森に興味をもつキッカケや、学習環境が様々な形で用意されている。
 - 森づくりや森の利活用のあり方検討に、全ての村民が参加する機会がある。
 - 森を支える人材が育ち、様々な形で村民と協働した
- 具体的な取り組み（例）
 - 幼・小・中・高校（・大学）での森林教育（森林ESD・木育）の推進
 - 森の交流施設における森林学習の機能拡充
 - 多様な人が森と関わるキッカケをつくる
 - 利用者が大芝の森づくり・計画に関わる機会をつくる
 - 各種技術者の育成（学習・体験～調査・計画～整備・活用）
 - ポータルサイト作成
 - ……など